

本部 熊本、佐伯、内海、(河野、槐、戸田、久津)
非参加支部代表 篠田、井瀨、田中(一房)、古明地、清水、元

合計九名

然折角のこの統一委員会、非参加支部の固執する中、非参加支部を
入せざることに統一協議会の名を以て東大を召集すること
の三条件の爲に何等纏るところなく散会に終つた。
他方自動車部は十月十八日の部会に於て、現本部に依るべしと
可否に就いて討議した。席上、植村貞雄、鈴木福太郎、山本康四
郎、荒川タケ等は、二、三ヶ月分本部費納入大会参加の妥協意見を
主張したるも、依然として譲らざる篠田、井瀨等、無条件大会参加
の主張に支配されて、自動車部としての最後の態度は決定し、
自動車部の斯も強硬主張の前に、本部派、妥協的態度は、電車
部の確立も何等の意義を持たなかつた。
十九日の統一小委員会は今も妥協の道を失つた。然情も、此日
極に達し、篠田一派は自動車部独立の意氣を失ひ、統一大会
小委員会を解消して、その提唱以前の情勢に戻すべしとの提言した。
茲に於て統一協議会小委員会設置以未約四ヶ月、東大受主、曙光
を望み乍ら折衝に折衝を重ねた結果が再び決裂の危機に転落したの

である。

(5) 統一臨時懇談会の開催と内紛の解消

統一協議会は解消されて、全東大合同の希望は失せられた。本部は十
月二十日執行委員会を開いて、(1)、統一懇談会決議、(2)、並に協
時大会以後統一に協力したる経過と大衆に浸透せしむる爲、(3) 州書
發表一件、(4) 大会を二十七日頃迄延期すべき件、(5) 田中房雄、野
望と篠田の一派幹部の排撃を趣旨とする大会議案追加の件等と決
議して、直接不参加支部大衆にも呼び懸けて定期大会決行を期した。
本部の態度は定まつた。これに對し自動車部は二十一日の部会に
於て、大会不参加を決議、部の単独組合結成を主張して、二十三日大
会を持つべく計画した。電車部は翌二十二日再び拡大委員会を開
た。伊藤政一、田中房雄の兩名は本部の定期大会参加を反對した。
併し電車部の總意は本部支持である。直に大会参加の声明書を書
表することとした。

然るとして、この席上田中、伊藤の前記二名は緊急動議として、
自動車部に對し大会参加勸奨の電車部單独交渉方針を提案した。